

【教育理念】児童の笑顔、教師の笑顔、保護者の笑顔が魅力ある学校を作る

㊦ んどういっぱい ㊧ キドキいっぱい ㊨ クワクいっぱい ㊩ ラキラ輝く

大野木場小学校便り No.26

令和7年 3月21日(金)

南島原市立大野木場小学校

校長 森田 純弘



かどわきっ子

「子は親の鏡」

ドロシー・ロー・ノルト／レイチャル・ハリス：著 石井千春：訳

「子どもが育つ魔法の言葉(PHP研究所)」より

※ 本文は著作権の都合上ホームページには掲載しておりません。

あまりにも有名な詩なので、これまでにどこかで見聞きしたことがあるかと思います。今年度の終わりに際し、この詩を紹介します。

著者ドロシーがこの詩を作ったのは1954年、今から71年前のことです。最後の一文には、「子どもたちが人生の荒波にもまれても挫けずに、希望をもって生きてほしい」という願いが込められています。

時代は変われど、今に通ずることばかりです。この詩は、37ヵ国語に翻訳され、世界中で子育ての指針とされています。

子どもたちは、お父さん・お母さん、家族が

大好きです。嫌なことやきついことがあっても、温かく包み込んでくれる家族の笑顔があれば、また次を頑張ろうと勇気が出ます。楽しいことや嬉しいことがあって、そのことを共有し共感してもらったら、その喜びは倍増します。

気付いてほしい、見てほしい、そんな声なき声を聞ける大人、君は大切な存在なんだよと伝えられる大人でありたいと常々思います。

今年度も、本校の教育に対し御理解と御支援を賜り誠にありがとうございました。